近事研

近畿ねっとわーく

第４０号
２００９．５．２８
～ 編集・発行 ～
近畿公立小中学校事務職員研究会
会　長　田　中　孝　夫
所在地　高島市立新旭南小学校
　　滋賀県高島市新旭町新庄 853
ＴＥＬ　０７４０－２５－２００９
http://www15.ocn.ne.jp/~kinjiken/

学校事務セミナーについて

去る 2 月 17 日（火）京都タワーホテルにおいて、学校事務セミナーが行われました。当日は近事研会員 172 名、会員外 17 名（遠くは宮崎・佐賀・静岡県から）ご参加いただきました。

前半は「 単位研究会の取り組み（報告会） 」、後半は静岡大学教育学部准教授（現 静岡大学大学院教育学研究科准教授）藤原 文雄 様より「 これからの学校組織と学校事務職員 」についてご講演いただきました。講演の内容を一部紹介します。

１　事務職員が学校に配置されている意味
－事務と教育課程の統合－

事務職員の存在意義は①教職員と関わらなければならないこと、②事務職員の固有の知識（予算、法令、情報管理等）と教育に関する識見を基盤として教育のサポートができることである。事務職員は若い頃から学校全体の流れを見ているという持ち味がある。これからの学校事務職員全員に求められるのは、教育についての議論に参画することであり、学校の流れをつかみ教員と共に協力しながら教育と関わり、固有の知識を活かして実践することにより、存在意義を常に明確化していくことが必要である。

２　事務職員の三層の仕事　－「経営」「管理」「作業」からの共同実施－

組織化（共同実施）の考え方は、誰もが同じ仕事をするのではなく、一人ひとりがキャリアに応じたレベルや範囲の違った仕事を行うことである。「経営＝学校の全体的な意思決定に参画すること。管理＝流れや全体を見渡し、歯車を合わすこと。作業＝実務」この三層の仕事を組織化することで、仕事の水準を高め、個人の信頼を組織の信頼へと変えていけば、職としての信頼を高めることができるのである。自分はできている、自分の学校はできているという考え方は排除しなければならない。これからの共同実施は地域教育経営という発想をもち、学校単独ではなく、学校の枠を超え資源をつなげて取り組むことが必要である。

３　事務長に求められるもの
－「ネットワーク行動」と「内部マネジメント」－

経営管理には広く浅く全体を見渡す水平思考（バードビュー）の見方が必要である。また、人を動かすには、権限（規程化等）が必要である。ただし、権限があるだけでは人を動かすことはできない。人を動かすパワーには「年齢・経験・人柄・知識」が求められる。リーダーとして経営参画のレベルを持って組織化を進め、個人信頼を組織信頼へと変えて、教育公務員としてのミッション「子どものためにできることをする」ことを果たすことが役割である。

最後に・・・

若い世代は、出会いを大切に。良い先輩を探しましょう。先輩たちは若い世代に希望を与える仕事をしていきましょう。そして信頼貯金を蓄積しましょう。